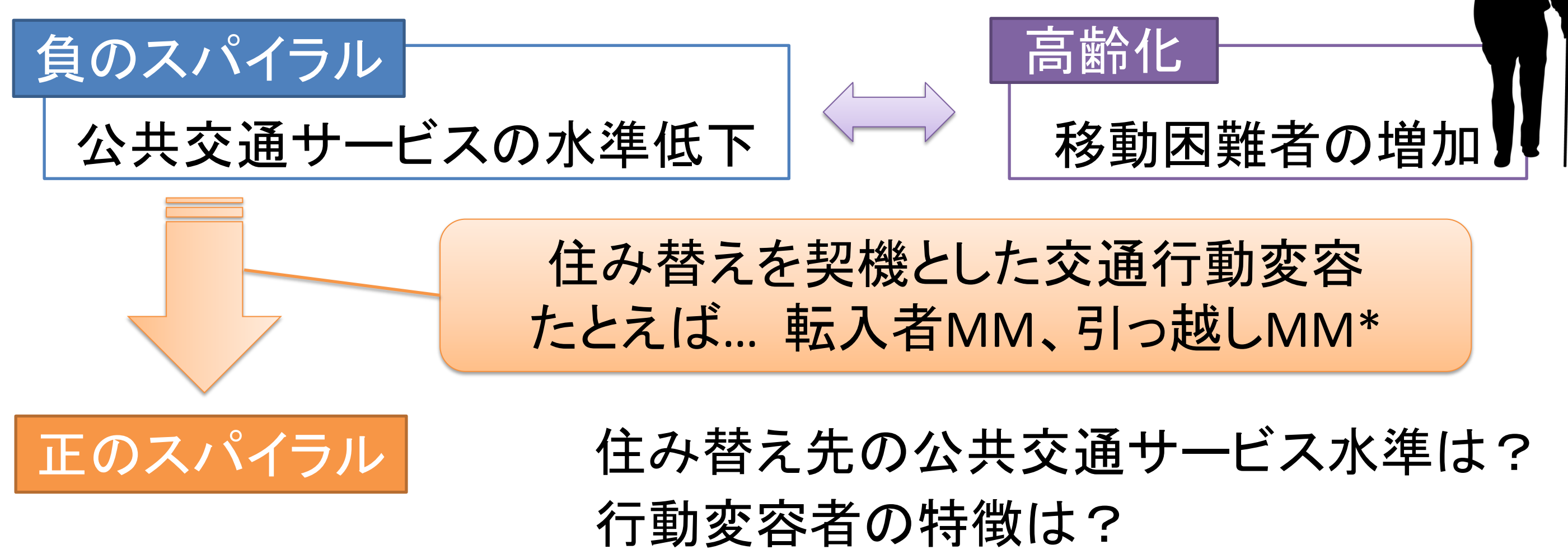


浜松市における交通環境良好地域への住み替えによる交通行動変化の実態 —交通情報の獲得に関連して—

筑波大学大学院 システム情報工学研究科 社会工学専攻 佐藤正堯
静岡大学 情報学研究科 西原純

1. 研究の背景・目的



目的

住み替え前後において、人々が交通行動や関連する意識をどのように変化させているのかを、交通情報の獲得の実態とあわせて、交通環境や個人・世帯属性の観点から要因とともに実証的に明らかにする

*浅見知秀・谷口綾子・藤井聡・石田東生 (2009):「引っ越し MM とバス利用促進 MM の相互作用によるバス利用促進効果分析」, 土木計画学研究・講演集(CD-ROM), 39, 論文番号 300

3. 公共交通サービス水準(LOS)の算出

横溝ら(2008)* の「バスLOS」の概念をもとに検討

各地点を無作為に出発して8分以内にバス・鉄道に乗車できる確率

$$LOS = \frac{8 - t_a}{\frac{1020}{n}}$$

t_a : 徒歩アクセス時間 (歩速を4km/hとする)
 n : 運行本数 (6時-23時、平日上り)

「運行本数」と「乗車地までの歩行時間」を総合的に評価

*横溝恭一・森本章倫 (2008):「バス LOS を考慮した被験者分類と MM による行動変容に関する研究」, 都市計画論文集, 43(3), pp.793-798

2. 調査の実施概要

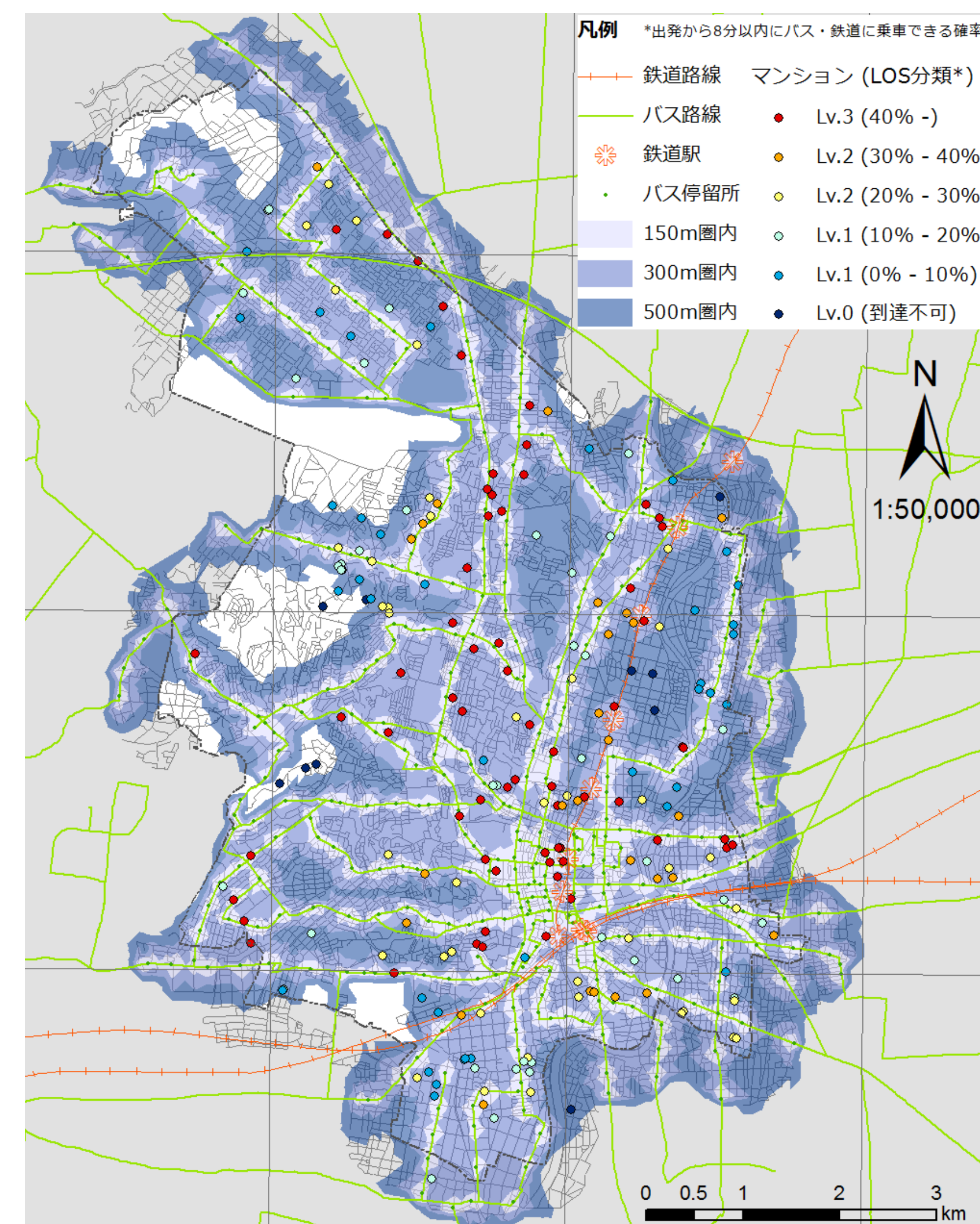
方法	ポスティングによる留め置き返送方式のアンケート
期間	配布...12月下旬、回収期間...配布から約2週間
対象地域	浜松市中区
対象者	築年数3年以内のマンション(14棟)居住者
サンプル	配布...301部、回収...58部(回収率19.3%)
調査項目	「個人・世帯属性」、「日ごろの外出の様子」、 「公共交通利用に対する意識」について

浜松市中区内における築年数
3年以内のマンション224棟の
うち、210棟(約94%)がバス停・
鉄道駅から500m圏内に立地

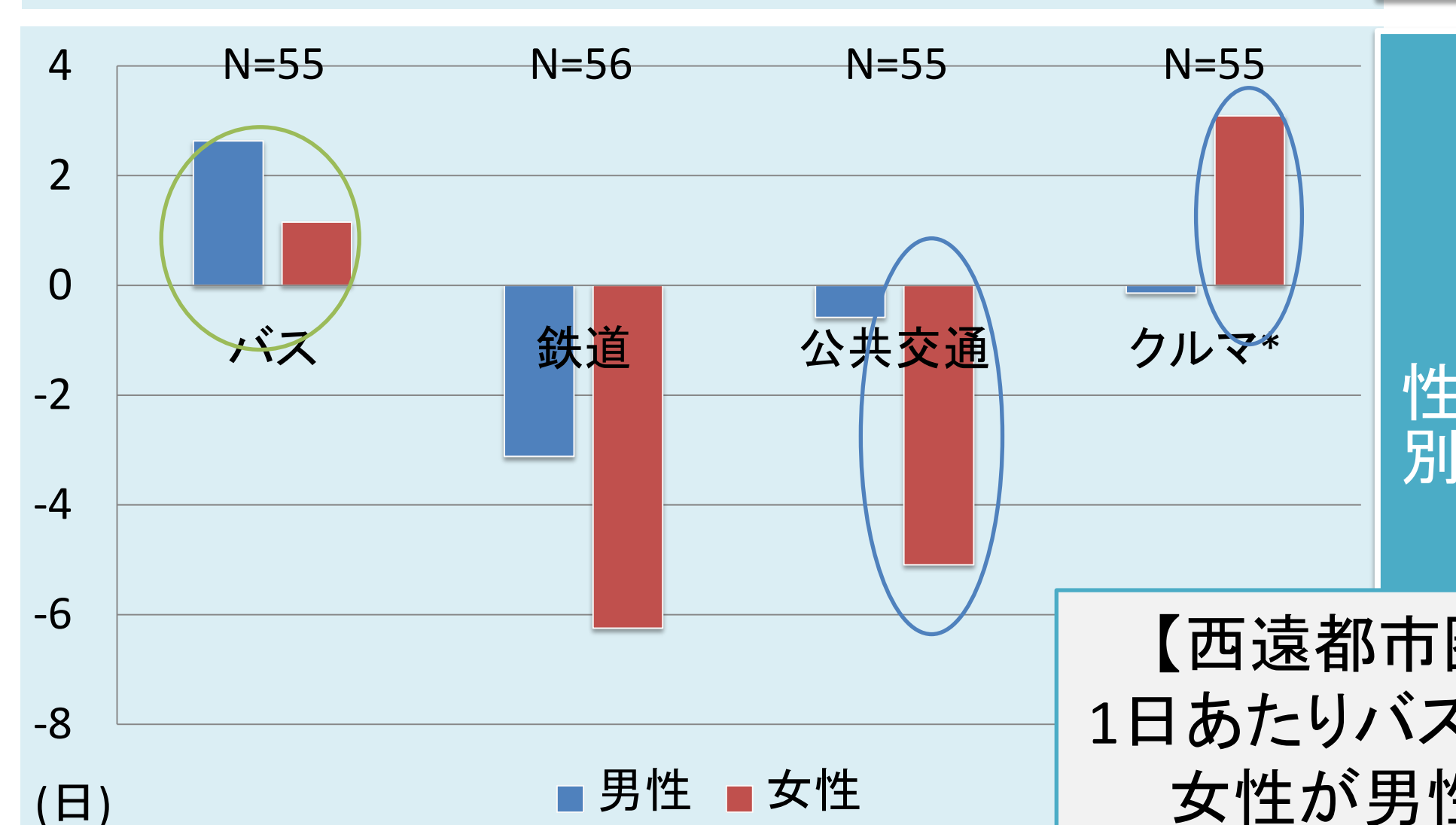
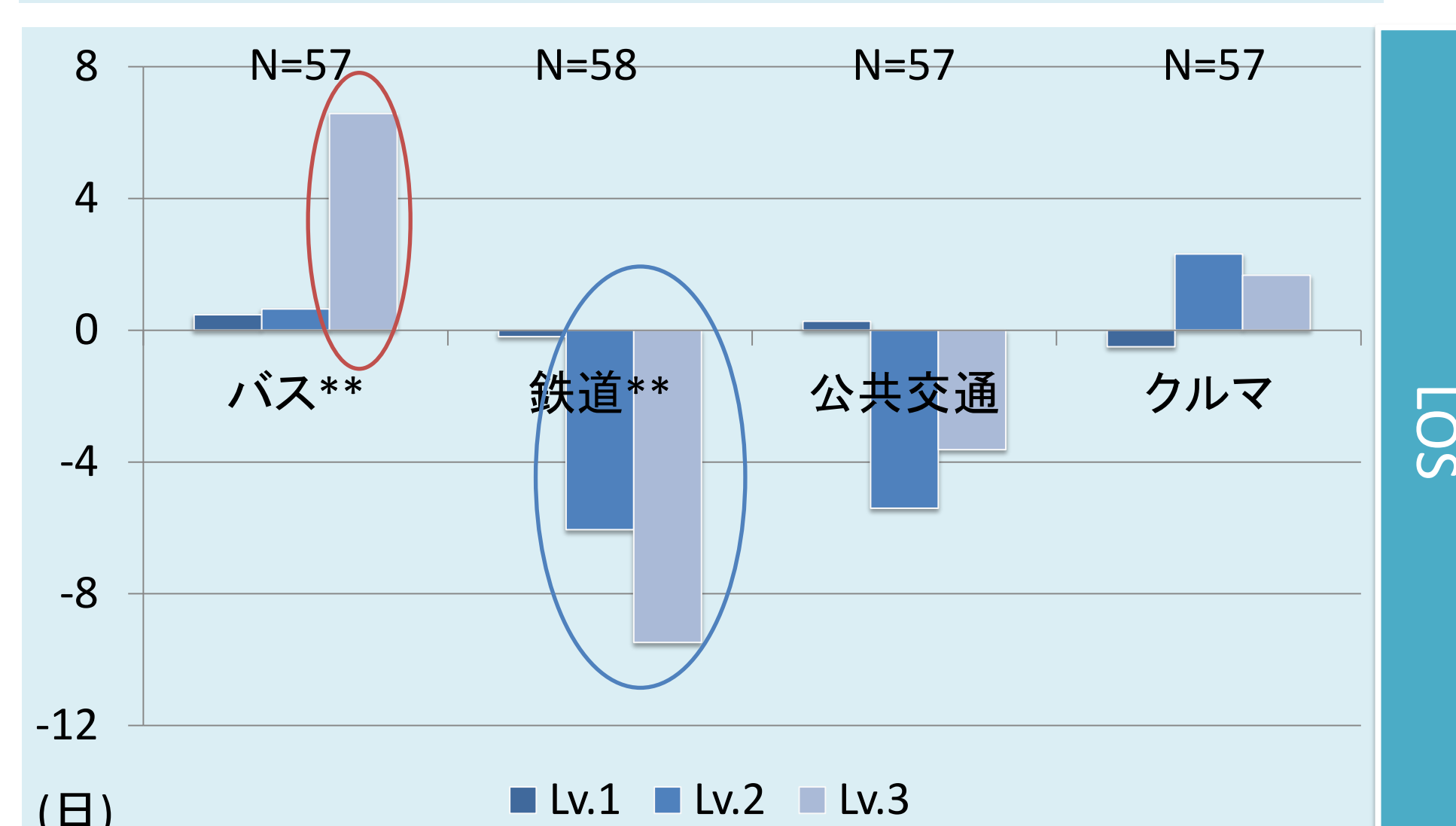
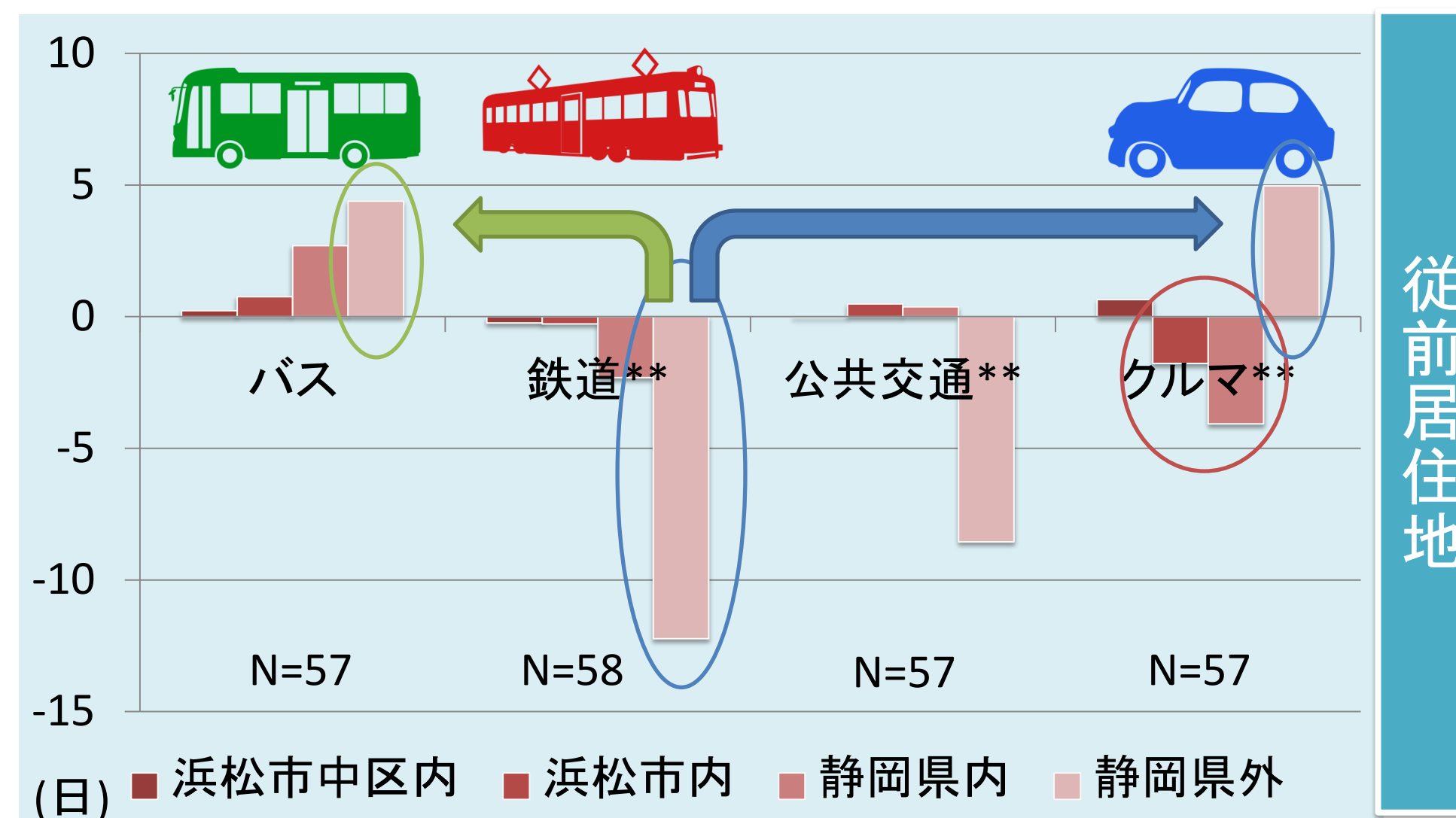
公共交通LOSについて、Lv.3
であるマンションの割合が高い

区域全体ではバスの主要路線沿線、中心部では鉄道駅周辺に、公共交通LOSの高いマンションが多く立地

LOS分類	LOS値
Lv. 3	40%-
Lv. 2	20%-40%
Lv. 1	0%-20%
Lv. 0	※8分以内に到達不可

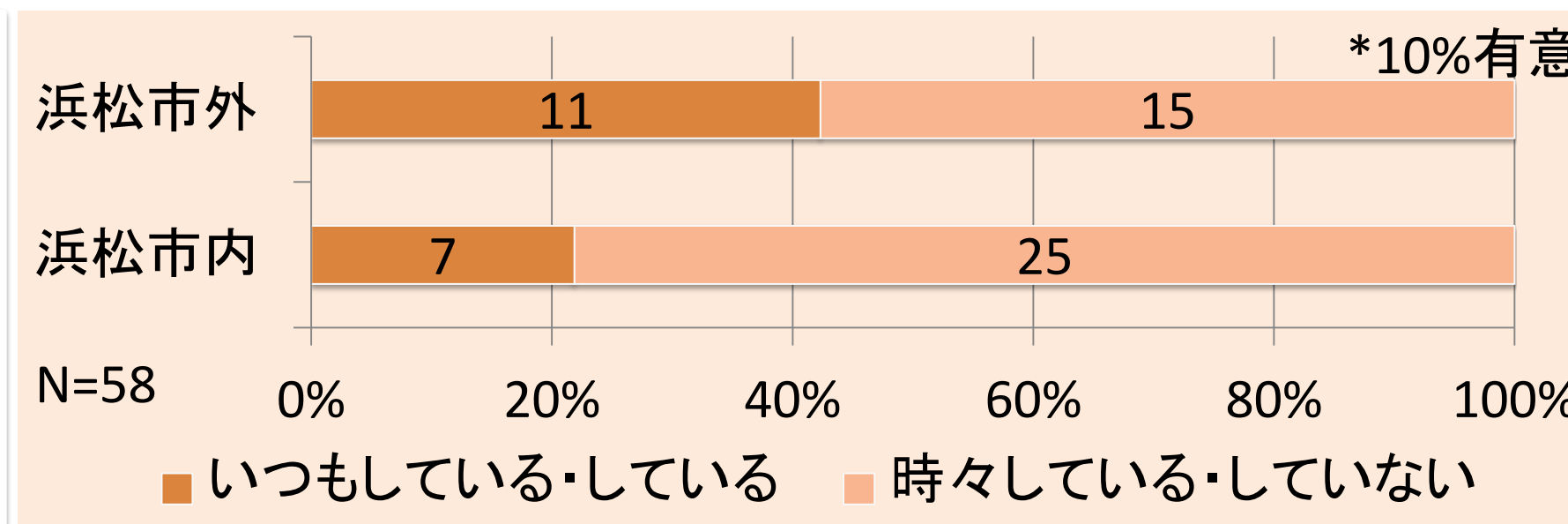


4. 結果

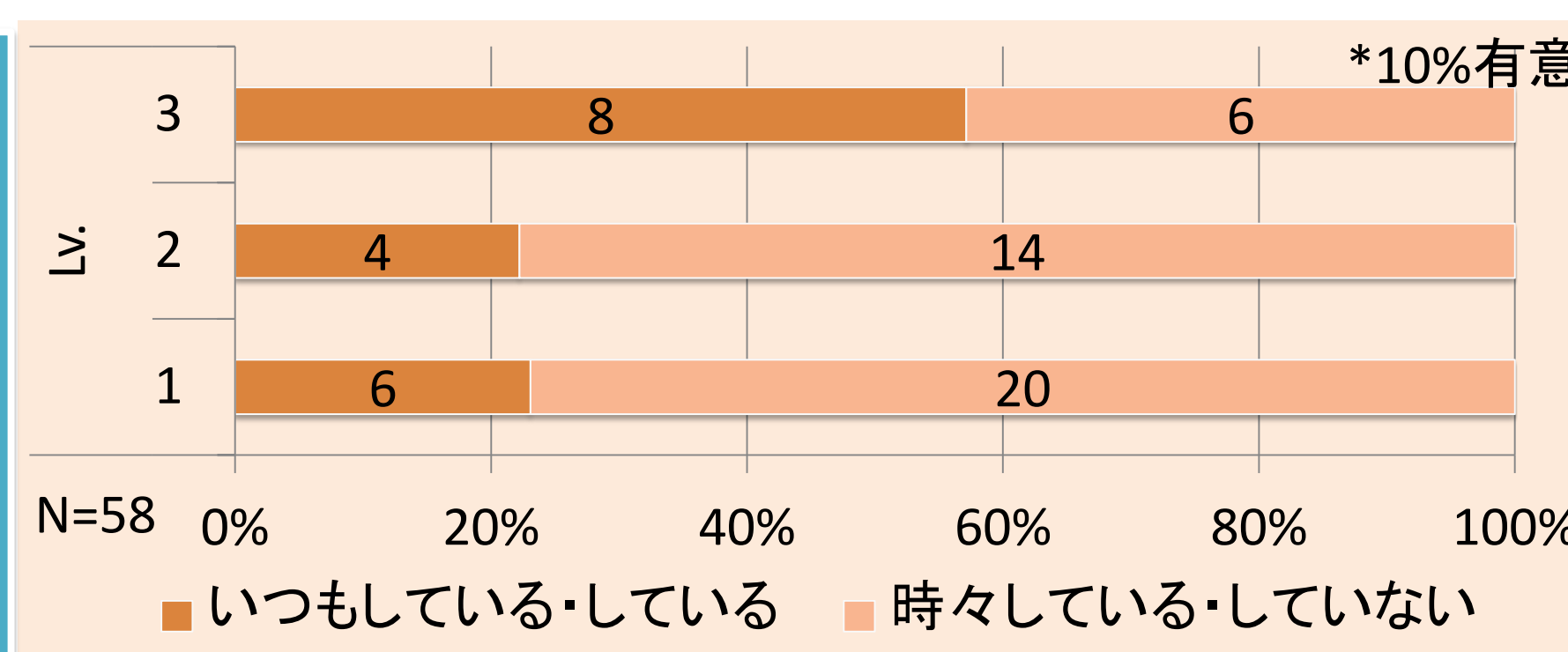


*10%有意 **5%有意

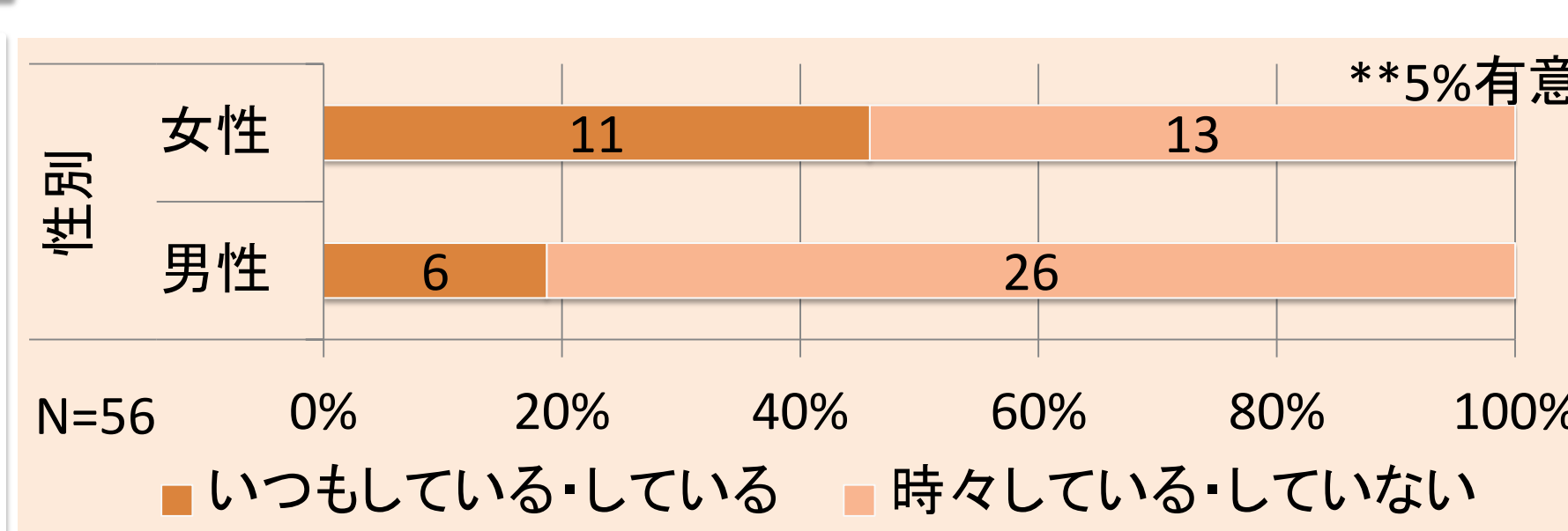
公共交通に関する情報収集頻度 (属性別)



住み替え前後で
 県外居住者 ...一部クルマ利用に転換
 区外～県内 ...クルマ利用を減少



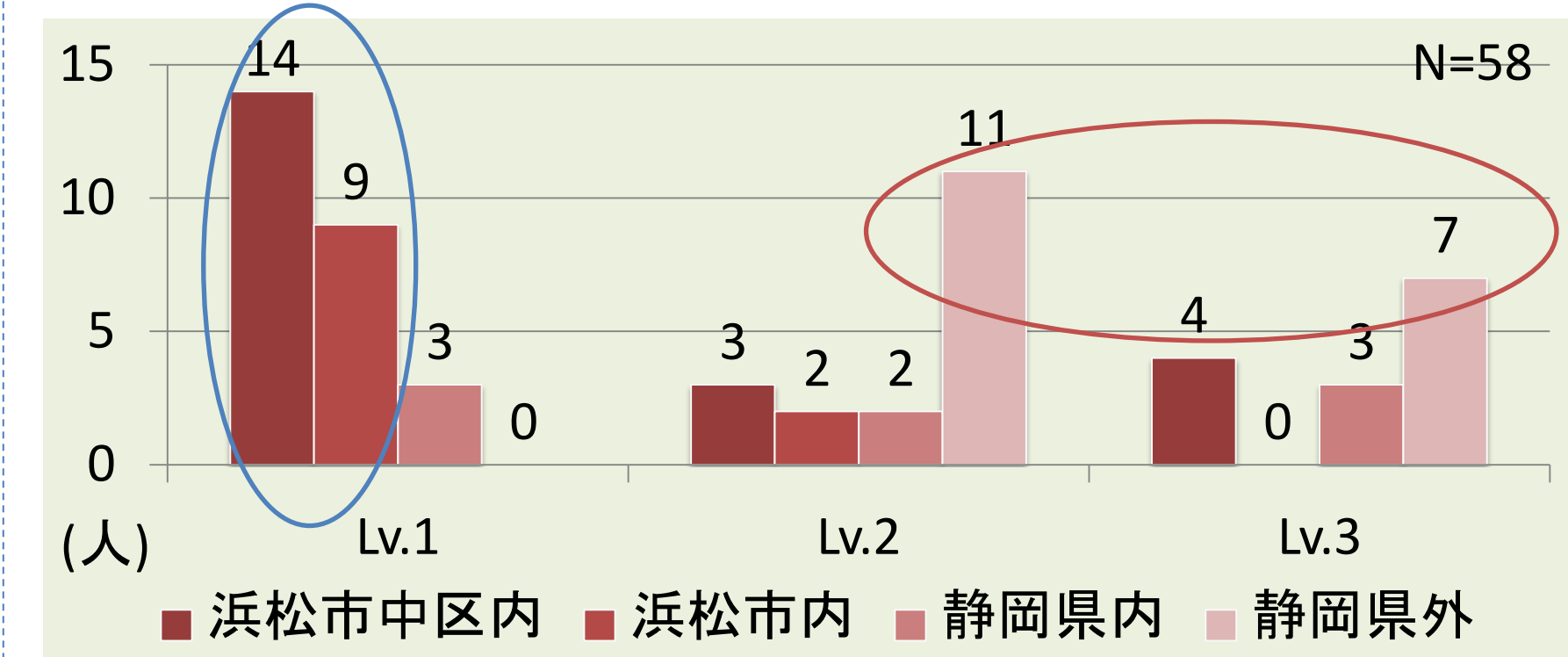
住み替えを契機としたバス利用への転換のためには、
一定以上の公共交通LOSが必要



住み替え前後で
男性 ...バス利用を増加させる
女性 ...クルマ利用を増加させる

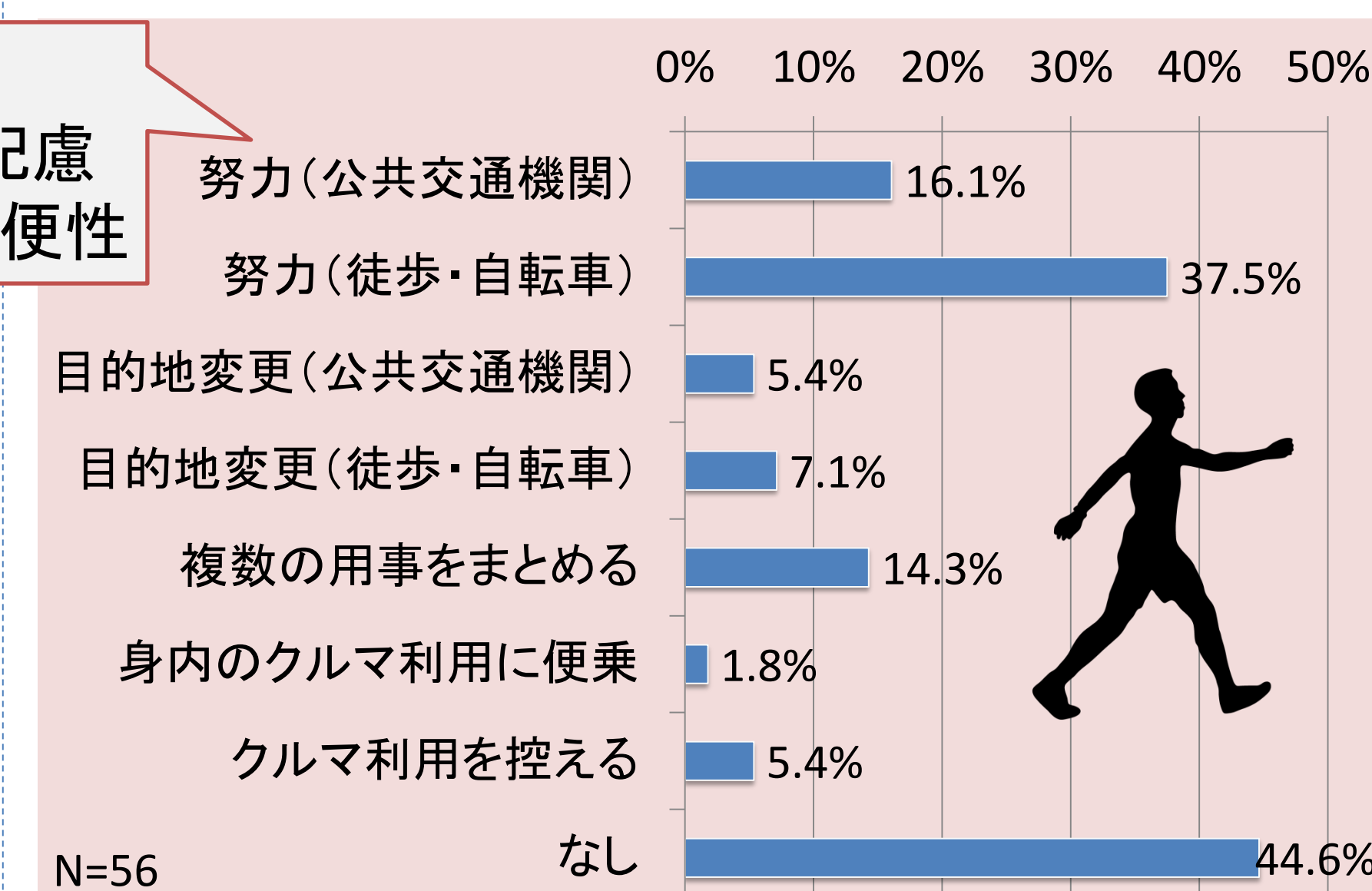
【西遠都市圏PT調査】
1日あたりバストリップ数は
女性が男性の約2倍

居住地選択 (従前居住地別)



浜松市内からの住み替え ...LOS 低
静岡県外からの住み替え ...LOS 高

住み替え前後で意識して変えた交通行動



「公共交通サービスの満足度」への影響

「不便に思う点」をダミー変数とした重回帰分析

- ・バスや鉄道の運行本数が少ない
- ・道路が混雑する
- ・運賃が高い
- ・バスが時刻表より遅れる

※決定係数(R2乗値)... 0.421

5. まとめ

- 住み替えを契機としたバス利用への転換のためには、一定以上のバスLOS（本調査ではLv.3以上）が不可欠
⇒ 転入時に、居住地選択を自発的に公共交通機関に配慮する方向に誘導する「引っ越しMM」実施の必要性
- 住み替え前に鉄道の利用を習慣としていた人、特に従前居住地が県外である居住者は、住み替え後に鉄道利用を大幅に減少させている公共交通LOSの高い地域に居住しバス利用を増加させてはいるものの、鉄道利用の減少分には満たず、クルマ利用への転換がみられる
⇒ 定時性を主とした運行改善の重点化と併せて転入初期のMMをパッケージとした施策を実施することが有効である可能性
- 女性は男性と比べて公共交通に関する情報獲得意向が高いものの、実際には公共交通利用を減少させ、クルマ利用を増加させている
⇒ 女性の住み替え者向けの交通誘導施策が有効である可能性